

更生保護活動に長年尽力 椎屋三八子さんが藍綬褒章を受章

4月29日付けの令和4年春の叙勲・褒章で、小林地区保護司会会長の椎屋三八子さんが藍綬褒章を受章しました。藍綬褒章は、公衆の利益と公共の事業に貢献した個人を表彰するもので、椎屋さんは保護司として更生保護活動に長年尽力してきました。受章に当たり椎谷さんは、「身に余る榮譽。先輩や同僚の保護司、関係機関の皆さんの支えに感謝したい」と話していました。



＜藍綬褒章＞
しいや みやこ
椎屋 三八子 さん

平成8年から現在まで保護司として活動。過ちを犯した人の立ち直りや、地域の犯罪・非行の防止を図る更生保護活動の推進に長年尽力。平成30年には県内で初めての女性の会長として、小林地区保護司会会長に就任。

犯罪や非行のない安心・安全な社会へ

7月1日、「第72回社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式が市役所で行われました。運動は、7月を強調月間として全国で展開。犯罪や非行、再犯を防止し、過ちを犯した人の立ち直りに理解を深めることで、安心・安全な地域社会を目指すものです。



ペイペイドームで野尻の物産品をPR

6月24日～26日、野尻町商工会（淵上鉄一 会長）が福岡県のペイペイドームでプロ野球の試合に合わせて開催されたイベント「みやぎきスペシャル DAYS」にブースを初出店し、マンゴーやメロンなどの特産品を来場者にPRしました。



東方小でSDGsの取り組みスタート 全校児童向けの講演会を開催

7月13日、東方小で全校児童を対象にSDGsについての講演会が開かれました。会では、企業や自治体向けのSDGs研修などを手掛ける（株）シンク・オブ・アザーズの難波裕祐子代表が講演し、SDGsに取り組む必要性について、児童向けに分かりやすく紹介。講演後は、SDGsに関するスキルアップを図る教職員向けの研修会も開催されました。



講演を聞いた6年生の黒木美祐さんは、「他の国の人たちのためにできることを、これから自分も見つけてやってみよう」と話していました

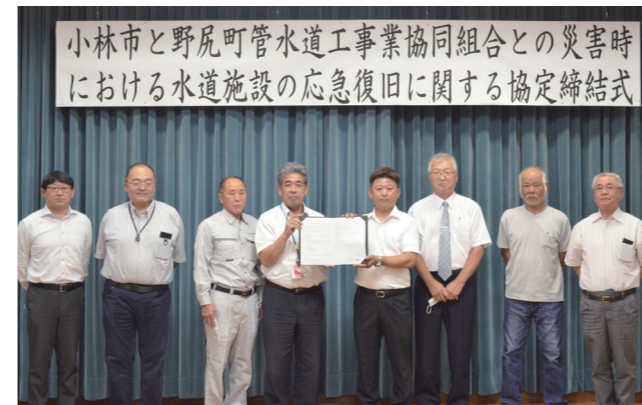
野尻小5年生が伝統芸能の歴史を学ぶ

6月20日、野尻小学校5年生が棒踊りの歴史を学習しました。東麓新地馬場棒踊り保存会（古川幸廣会長）による講話と、実際使用される鳴り物の演奏を聴きました。野尻小児童による棒踊りは25年目。運動会や郷土芸能フェスティバルで披露されます。



ウクライナ人道危機へ区長有志が寄付

6月24日、ウクライナ人道危機への支援のため、区長の有志で集めたお金を日本赤十字社宮崎県支部小林地区（地区長：宮原市長）へ寄付しました。寄付金は日本赤十字社を通じ、ウクライナでの人道危機対応や、ウクライナからの避難民の救援活動に活用されます。



水道は生活に不可欠なライフラインの一つ。協定締結により官民協力体制が強化されることで、より一層安心な暮らしが期待されます

野尻町管水道工事業協同組合と災害時の水道復旧に関する協定締結

7月7日、市と野尻町管水道工事業協同組合（菊池健一郎理事長）は、災害時における水道施設の応急復旧に関する協定を締結しました。同組合は地元根付いた企業8社で構成。理事長は「市民のライフラインを守っていく使命感に身の引き締まる思い。組合が協力し合い迅速に水道が復旧できるよう努めてまいります」と話しました。

細野中学校34人が農業の大切さと就労について考える農家民泊を体験

7月7日～8日、細野中学校の1年生34人が、北きりしま田舎物語の協力農家宅で農家民泊を体験しました。須木地区の夏木政和さん宅に滞在した生徒4人は、畑の除草作業やピザ焼き体験を行い交流を深めました。同農園で収穫したブルーベリーを食べた上飯屋仁さんは、「想像していたよりも甘くておいしかった」と喜びを語りました。



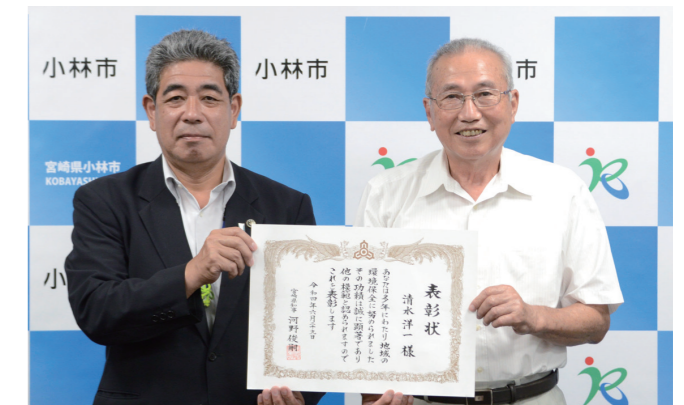
民泊は市の食育実践推進事業を活用。生徒たちは、農家での体験学習を通して食を支える農業の大切さや、働くことの意義について学びました。

トレーニングセンターでの研修終え 新たに市民2人が新規就農

6月23日、アグリトレーニングセンター第2期生上田慎二さん（前列右から4人目）と第3期生山下和義さん（前列左から5人目）の修了式が行われました。同センターは、就農希望者にきゅうりなどの栽培管理や経営を指導し、地域農業の担い手を育成することが目的。上田さんはピーマン農家、山下さんはきゅうり農家として、新たな道を歩みます。



上田さんは「色々な方にお世話になった2年間。皆さんに感謝したい」、山下さんは「不安はあるが、初心を忘れずやっていきたい」と話していました



個人で唯一の受賞者となった清水さんは「水は小林の宝。小林は湧水のまちだと広く認知され、市民全員で大事にしてほしい」と話しました

市内湧水地の保全活動に尽力 清水洋一さん県環境保全表彰受賞

6月29日、県内で環境保全や美化活動などに取り組む個人や団体をたたえる「県地域環境保全功労者等表彰」を清水洋一さんが受賞し、同日、市長に受賞を報告しました。清水さんは、湧水インストラクターとして小林市内の湧水地を調査し、その保全活動に努めており、小中学校などで小林の湧水の大切さを伝える活動も行っている。



河島さんは、「県大会では練習より記録が出ずに悔しい思いをしたので、全国大会でその悔しさを晴らせるようがんばりたい」と話していました

小林 Jr アスリートクラブ河島椿さん 全国大会への出場を市長に報告

7月15日、小林ジュニアアスリートクラブの河島椿さん（小林小6年）が、6月26日の県小学生陸上競技交流大会「小学5・6年生女子共通コンバインドAの部」で1位を獲得しました。この競技は、80mハードルと走高跳びの合計点で競うもの。河島さんは、8月19～20日に神奈川県で開催される全国大会へ出場します。

南小・永久津小生徒が水辺環境を調査

南小と永久津小の生徒が水辺環境調査を行いました。この取り組みは、地域の水辺環境に関心を持ち、環境保全活動を広げることを目的として行われたもの。生徒たちは、水質検査や水生生物の採取などをして、地元の河川への親しみを深めました。



コバ看女子バレー・バスケットが優勝を報告

7月14日、小林看護医療専門学校のバレーボール女子とバスケット女子が、6月末の宮崎県専修学校各種学校連合会第35回スポーツ大会で優勝したこと市長に報告しました。大会は県内の専門学校14校が参加。バレーは2大会連続、バスケットは初優勝を果たしました。



細野小6年生が小林の魅力ハッシン 観光地など紹介するパンフレット作成

7月13日、細野小6年生児童57人が、小林の観光地や特産品などを紹介するパンフレットを市長へ贈呈しました。児童は、関係者への取材やタブレット端末での編集作業など、約2カ月をかけて作成。完成したパンフレットは、市役所などに設置されるほか、9月に予定されている鹿児島県への修学旅行で宿泊先などに配布する予定です。



6年生の川崎颯也さんは「改めて小林市の魅力を知ることができました。素敵なパンフレットができたと思います」と話していました

人権擁護委員1人が委嘱されました

人権擁護委員として、若松照雄さんが法務大臣から委嘱されました。任期は令和7年6月30日までです。毎月「人権・行政・なやみごと相談」を開催していますので、気軽に相談ください。（今月の相談日は23日、「くらし」ページを確認ください）



河川浄化等推進員委嘱に22人を委嘱

7月4日、河川浄化等推進員の委嘱状交付式が行われ、再任20人、新任2人の計22人が委嘱されました。任期は2年間で、小林市が誇るきれいな水を守るため、河川の水質や環境の定期的な監視、河川浄化の啓発活動などを行います。

